

第 1 回 福崎町地域公共交通会議 議事録

1. 日 時 平成 22 年 9 月 6 日 (月) 13:30 ~ 15:00
2. 場 所 福崎町サルビア会館 2 階 講義室
3. 出席者

	所 属 団 体	役 職 名	氏 名	代理等
町 長			嶋田 正義	
会 長	兵庫県立大学環境人間学部	教 授	松本 滋	
委 員	福崎町区長会	副 会 長	中田 光夫	
	福崎町老人クラブ連合会	会 長	庄 幹正	
	福崎町商工会	会 長	後藤 雅一	村上 三郎 (事務局長)
	J R 西日本福崎駅	副 駅 長	武智 芳直	欠 席
	神姫バス株式会社姫路営業所	所 長	月野木 謙一	滝口 亨 (副所長)
	社団法人兵庫県バス協会	専 務 理 事	小西 一夫	
	社団法人兵庫県タクシー協会西播地区 (神崎交通有限会社)	副 会 長	依藤 義光	
	神姫バス労働組合	書 記 長	中川 貴水	欠 席
	神戸運輸監理部兵庫陸運部	首席運輸企画 専 門 官	木村 淳三	本田 泰彦 (運輸企画専門官)
	中播磨県民局姫路土木事務所	企画調整担当 主 幹	寺西 章浩	鈴木 悟 (主査)
	福崎警察署交通課	課 長	戸田 幹則	
	福崎町議会 (民生常任委員会)	副 委 員 長	志水 正幸	
	福崎町議会 (産業建設常任委員会)	委 員	吉識 定和	
	福崎町	副 町 長	橋本 省三	
福崎町まちづくり課	課 長	志水 利雄		
オブザーバー	近畿地方整備局姫路河川国道事務所	道 路 管 理 第 二 課 長	高村 裕一	
	兵庫県県土整備部県土企画局交通政策課	副 課 長	竹林 誠	

(順不同 敬称略)

	所 属 団 体	氏 名
事務局	福崎町健康福祉課	高松 伸一
		三木 雅人
		村上 祥教
	(株) 丸尾計画事務所	丸尾 哲也
		西村 和記
		小林 巧

4. 配布資料

次第

座席表

資料1 福崎町地域公共交通会議設置要綱、構成員名簿

資料2 町内巡回バス事業等について

資料3 福崎町の地域公共交通活性化に向けた検討について

資料4 福崎町の交通をとりまく現状

資料5 交通行動実態調査について

5. 傍聴の可否

傍聴可、傍聴人1名

6. 開会

(事務局)

定刻より若干早いのですが、ただ今から第1回福崎町地域公共交通会議を開催いたします。

本会議は設置要綱により公開とさせていただきます。会長選出までの間、司会進行をさせていただきます、事務局健康福祉課の高松です。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、嶋田町長がご挨拶を申し上げます。

(嶋田町長)

本日は暑い中、福崎町地域公共交通会議に参加いただきありがとうございます。大変暑い日が続く中、皆様方の健康保持にも大変苦労されていると思います。

さて、町内巡回バス事業を取り組んだのが平成11年4月で、事業開始後11年が経過いたしました。バスが老朽化していく中、町内の弱者を守る足をどのようにしていくかが、議会でも町民の皆さまの間でも話題になるようになりました。この会議は、町内の弱者を守る足を今後どのようにしていくか、皆さまのお力を受けながら検討し、一定の方向を指し示していければ幸いです。開会いたしました。幸い本会議への参加を皆さまへお願いしたところ、大変お忙しい方々ですが参加を快諾していただき、本日初めての会議となった訳でございます。これから何度か会議を行います。福崎町の公共交通を充分検討していただき、すばらしい方針を打ち出していただけるよう心からお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

7. 設置要綱について

事務局から、設置要綱について説明。(資料1)

8. 委嘱書及び指名書の交付

町長から、委員を代表して松本滋教授に委嘱書を交付。他の委員には委嘱書を、オブザーバーには指名書を机の上に配布する形で交付。

9. 委員紹介

各委員、オブザーバー、事務局より自己紹介。

10. 会長の選出

設置要綱により、会長の選出を委員による互選をお願いしたところ、事務局に一任するという意見が出た。事務局から、学識経験者である兵庫県立大学の松本委員を推薦したところ、異議なしとのことから、松本委員が会長として選出された。

(松本会長)

このたび、福崎町地域公共交通会議の会長に就任いたしました兵庫県立大学の松本滋です。福崎町の公共交通を活性化させるため、充実した充分な議論を尽くしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

11. 協議事項

(1) 町内巡回バス事業等について

事務局から、町内巡回バス事業等について説明。(資料2)

(会長)

サルビア号の補助員とは、どのようなことをする人ですか。

(事務局)

サルビア号の補助員は、高齢者の利用が多いサルビア号の乗り降りの手助けをする人であり、シルバー人材センターに委託して、1名添乗していただいております。

(会長)

車椅子の方の利用もあるのでしょうか。

(事務局)

いいえ。サルビア号は車椅子の人が乗車できるバリアフリー対応となっていないため、利用いただけておりません。車椅子の方は、他の手段を利用されております。

(会長)

サルビア号の利用率はどの程度ですか。

(事務局)

1台で運行しているサルビア号の乗者人数は全路線で1日当たり約40人です。座席数34席のサルビア号は1日2コースを各2便運行しておりますので、利用率は低い状況です。

(会長)

サルビア号は1日合計で4往復していることから、往復別で見ると8便あり、平均で1日40人の利用者だから、1便当たり約5人の利用となります。座席数は34席だから、まだまだ座席に余裕があり、もっと利用していただけるよう、この会議でも検討していく必要があります。

(2) 福崎町の地域公共交通活性化に向けた検討について

事務局から、福崎町の地域公共交通活性化に向けた検討について説明。(資料3)

(委員)

資料3の3頁の地域公共交通活性化再生総合事業について、補足説明がございます。資料

に記載されているとおり、地域公共交通活性化再生総合事業は一旦廃止になりました。しかし、これに代わる新たな事業として、地域公共交通維持確保改善事業（仮称）を平成 23 年度の概算要求として、国土交通省から財務省に提出しております。地域公共交通活性化再生総合事業は地域公共交通維持確保改善事業に変更されるものと思われます。現段階で詳細なことは未定ですが、地域公共交通活性化再生総合事業とは少し仕組みが変更される可能性もあります。

（会 長）

事務局は、仕組みの変更がある可能性を承知した上で、本会議での検討を進めていくということですか。

（事務局）

はい、承知した上で検討を進めていきたいと考えております。

（会 長）

来年度は国土交通省とタイアップして計画策定を行い、その後 3 年間の実証運行事業がありますから、委員の方々には今年度も含め今後 5 年間、福崎町の地域公共交通活性化に向けた検討について、ご協力をお願いしたいと思います。

（3）福崎町の交通をとりまく現状について

事務局から福崎町の交通をとりまく現状について説明。（資料 4）

（会 長）

16 頁の自動車登録台数を見ると、町民の 2 人に 1 台クルマを保有していることになっています。運転免許を持っていない高校生以下や高齢者を除くと、町民の大人 1 人に 1 台クルマを保有していることになり、福崎町は大変なクルマ社会となっています。

また、6 頁の利用交通手段を見ると、福崎町はクルマ利用が圧倒的に多くなっています。福崎町には J R 播但線が走っていますが、鉄道利用が約 8%ということは、福崎町から姫路市方面へ通勤される方もクルマ利用が多いということですか。

（事務局）

はい、通勤圏内はもちろん姫路市が含まれますし、クルマの利用がかなり多いと思います。

（会 長）

福崎駅の利用は学生が多いようですので、高校生や大学生は鉄道を利用して通学しているが、働いている人はクルマを利用して通勤している人が多いという状況でしょうか。

（事務局）

はい、そうです。8 頁の福崎駅年間乗車人員の推移を見ると、普通乗車券利用はあまり変化してありませんが、定期券利用は近畿医療福祉大学や福崎高校の学生数の増減と同じように増減しております。このことから、鉄道利用は学生が多く、働いている人はクルマ利用が多いと思われます。

（会 長）

9 頁や 11 頁のバス停別乗降者数を見ると、町内にはバス路線がある程度あるが、バス利用者は非常に少なくなっています。姫路方面など町外への移動だけではなく、町内の移動でもクルマ利用が多いという状況でしょうか。

(事務局)

はい、そうです。

バスは運行ルートが定まってしまっているということもあり、町内の移動でもバスは利用されにくく、クルマ利用が多い状況です。

(会長)

福崎町がクルマ社会となる以前は、バスの利用が多かったのでしょうか。

(事務局)

何十年も前には、現在の三木穴栗線にバス路線があり、各村にも路線がありましたので、クルマ利用よりもバス利用者が多かったと思います。しかし、現在ではクルマ利用が主流になっております。

(4) 交通行動実態調査について

事務局から交通行動実態調査について説明。(資料5)

(会長)

町民移動実態調査は、一家の4人まで全員お答えいただくアンケートということですね。

(事務局)

はい、中学生以上の高齢の方から順に4名まで回答していただくことにしています。

(以下アンケートの内容、配布回収についての補足説明)

(会長)

町民移動実態調査の設問の問2で「主な交通手段(利用したものすべてに)」とありますが、よく行く場所を答えていただく設問ですから、「主な交通手段(利用するものすべてに)」にした方が良いかと思えます。

(事務局)

はい、「主な交通手段(利用するものすべてに)」と変更いたします。

(5) 協議事項全般について

(委員)

設置要綱の第2条(1)で、「福崎町における公共交通のあり方に関する事項」をこの会議で協議するとありますが、公共交通という定義はJRや路線バス、タクシーや巡回バスなど範囲が広いため、何かにターゲットを絞って具体的に協議した方が良いのではないかと思います。また、設置要綱の第2条(2)で「地域の実情に応じた適切な乗合旅客運送の態様及び運賃に関する事項」をこの会議で協議するとありますが、福崎町の実情に応じた適切な乗合旅客運送を検討していくに当たって、他都市で実施されている乗合タクシーやデマンド交通、ボランティア輸送、コミバス等の乗合旅客運送も含めて検討していくということですか。

(事務局)

道路運送法に基づく地域公共交通会議は、地域のそれぞれの公共交通について協議する会議とされております。しかし、福崎町地域公共交通会議では、必要に応じて路線バスの休止や運賃等の協議も行う予定ですが、事務局としては、神姫バス等と競合しない地域公共交通を協議する会議にしていきたいと考えております。福崎町の今後の地域公共交通を協議して

いく上では、サルビア号の再編や有償運送も含めて、町民の足となる必要な輸送サービスを協議していただきたいと考えています。

(委員)

福崎町の今後の地域公共交通を協議していくためには、福崎町の現状を把握して説明できる町民の意見が必要だと思えます。設置要綱で示されている委員には、福崎町外の人が多く、町内の人が少ないと思われます。もっと、福崎町の現状を把握されている町内の身近な組合の代表の方々に、参加していただいた方が良いのではないかと思います。

(事務局)

福崎町の今後の地域公共交通を、この会議だけで協議していくことは考えておりません。資料3の2頁の検討フローにも示していますとおり、福崎町の今後の地域公共交通を検討していくに当たっては、町民懇談会等の町民の意見を聞く場を設ける等、町民意向を反映させて検討を進めたいと考えております。この会議は、町民意向を反映させた検討結果を受けて、最終的な決定を行う場という位置づけです。

また、町内の事業用自動車の運転者が組織された団体の代表の、この会議への参加希望がある場合は、委員の追加を検討していきたいと思えます。

(会長)

今後、できるだけ町民の意見を反映させる努力をお願いしたいと思います。

この会議をどのようなテーマで取り組むべきか、私なりの意見を言わせていただきます。現在の交通をとりまく環境は、世界的にも日本でも大きな転換期を迎えています。その内容は、日本では20世紀後半からクルマが増加してきましたが、クルマの増加が進み過ぎ、公共交通が衰退して、クルマ優先社会となってしまったことから、環境問題や、高齢化の進展でクルマを利用できない人の移動問題が大きくなってきており、クルマ優先社会を見直して公共交通と自転車、徒歩をもっと利用すべきという考えが広がってきているということです。このような中、福崎町では典型的なクルマ社会地域となっており、町民のほとんどの人がクルマによる移動で生活しているが、高齢化や人口減少の進展が予想されるため、今後もその状況が続くとは考えられません。このため、福崎町においても、クルマがなくても生活できる地域づくりをしていかなければならない時期を迎えようとしています。しかし、実際は町民の多くは日々クルマを利用しているため、今後、クルマに過度に依存している福崎町をどのようにして変えていくのか、方向性を見出さなければならぬ時期にきています。例えば、サルビア号においては、クルマを利用できない人が移動する際に困らないよう、無料で運行しているにも関わらず、現在の利用者は少ない状況です。しかし、今後はさらに高齢化が進み、クルマを利用しづらい人が増加すると予想されることから、サルビア号のような地域公共交通は必要であるため、サルビア号の再編を中心にして福崎町における公共交通のあり方を検討するべきであると考えています。

私としては、町外に出て行く移動よりも、町内での商業施設や病院、文化施設、福祉施設等への移動に当たっての町民の移動交通手段をいかにして確保していくかが、非常に重要だと思っております。この会議では、主に町民の町内移動の交通手段確保について協議していきたいと考えていますが、いかがでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(会 長)

最近では、大都市圏を中心に自転車の利用が大変増加してきていますが、福崎町でもそのような傾向は見受けられますか。

(事務局)

いいえ。福崎町で自転車の利用が増加しているとは今のところ感じておりません。

(会 長)

福崎町では、自転車は中学生や高校生など、クルマを自分で運転できない人の交通手段であるということですね。

数年前まで韓国では、大人はクルマを利用し、自転車は子供が利用するもので、大人は自転車を利用しないという風潮がありましたが、最近では意識の変化により、大人の自転車利用者が急増しています。福崎町でも同じように、今後自転車利用が増える可能性があります。

福崎町の高齢者が買い物に行く時などは、自分でクルマの運転ができない方は、サルビア号を利用するよりも家族や近所の人に乘せていただく方が多いのでしょうか。

(委 員)

私は福崎町の中心部ではなく東部に住んでおり、東部地域のことしか分からないのですが、福崎町の高齢者が外出する時は、無料とはいえ便数が少なく不便なサルビア号を利用せず、家族に乘せていただいてクルマで外出する人の方が多いかと思えます。

私は76歳になりますが、未だにクルマを運転しています。この齢になると夜間の運転など特に危ないと感じる時はありますが、クルマを運転しないと不便なのが現状ですので、クルマをやむを得ず運転しております。

(会 長)

委員のように自覚されている方はいいですが、過度に運転に自信のある高齢者は危険なので気をつけていただきたいと思いますね。

12. その他

(事務局)

今年度の地域公共交通会議は本日を含め、合計3回の開催を予定しております。次回の第2回会議は12月上旬の開催を予定しております。第3回会議は2月頃の開催を予定しておりますので、よろしくお願いたします。

13. 閉会

(事務局)

以上をもちまして、第1回福崎町地域公共交通会議を閉会させていただきます。閉会にあたりまして嶋田町長から挨拶をいただきます。

(町 長)

本日協議いただいたご意見等は今後、参考にさせていただき取り組ませていただきます。委員の皆さまには、福崎町の地域公共交通をどのようにしていくかという大変難しい課題を次回からも協議していただくこととなりますが、今後ともご協力よろしくお願いたします。

本日はありがとうございました。

以 上